

ALCE第91回例会 コンヴィヴィアリティ X ことば

古屋憲章

「言葉の再発見」(イリイチ、2015/1973)

仕事をする



仕事をもつ

私は学びたい



私は教育を受けたい

私は歩きたい



私は輸送機関を必要とする

私が自律的に行為する



私が「産業主義的な道具」を所有/消費/操作する

ことばによる人間のシステムへの従属の内面化

個別性・自律性の阻害

ウヴェ・ペルクゼン 精谷啓介®訳

歴史を喪失したことばの蔓延



Uwe Porksen, Plastic Words, The Tyranny of a Modular Language

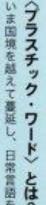
藤原書店





ISBN978-4-89434-594-2 C0036 ¥2800E

定価 本体 2,800 円+税





「プラスチック・ワード」 (ペルクゼン、2007/1988)

F 一般的作用
 19 プラスチック・ワードは、その無限の一般性によって空白を埋め、それまでには存在しなかったニーズを満足させるような印象を生みだす。言い換えれば、プラスチック・ワードはニーズを呼び起こす。プラスチック・ワードがあらゆる領域を共通分母にまで還元すると、未来に向けた命令的指示が発せられる。プラスチック・ワードは、事物の方がことばに合わせるべきであることを要求する。そして、つねに何かが欠けていることに注意を向かわせる。(p.210)

事例:グローバル人材

- グローバルラーニングセンター
- グローバルエキスパートポイント

グローバル 人材

有用/無用 (役に立つ人間/ 役に立たない人間)

自己責任 (負けたら、自分のせい)

新自由主義(世界的な自由競争)

「言葉の再発見」

・産業主義的な道具の操作規則は日常の言葉のなかに侵入し、 人間の詩的自己証明を辛うじて許される片隅での抗議にまで おしさげている。その結果生じる人間の産業主義を逆転するには、 新しい意識水準とともに、言葉の自立共生的(コンヴィヴィアル)な 働きをとり戻すしかない。共同社会の形成に参加する各人の権利を 要求し主張する一国民によって使われる言葉は、人々と工学的に 設計された技術的手段の関係を明らかにするいわば二次的な道具 となる。(イリイチ、p.202)

問いへの応答

- 今、私たちに何ができるのか?
- ことばを通じて、どのように社会とつながり、 現在の状況を変えていけるのか。
 - 共生社会をめざす日本語教師として、ことばが帯びる政治性に 敏感になるととともに、ことばを批判的に再解釈する。
 - ことばを批判的に再解釈すること自体を日本語教育実践とする。
 cf.「共生社会におけることばの教育」の実践としての「本質観取」
 (稲垣、2022)

個別性・自律性が尊重される社会へ

参考文献

- ・稲垣みどり(2022)「「共生社会におけることばの教育」の実践としての「本質観取」」『共生社会のためのことばの教育―自由・幸福・対話・市民性―』第2章(pp.41-71)明石書店
- イリイチ,イヴァン(2015)『コンヴィヴィアリティのための道具』(渡辺京二、渡辺梨佐訳)筑摩書房(原著は1973)
- ペルクゼン,ウヴェ(2007)『プラスチック・ワード』─歴史を喪失したことばの蔓延─』(糟谷啓介訳)藤原書店(原著は1988)